

【算数科】

1 昨年度の授業改善推進プランの検証・評価

- 単元のまとめでは、ステップ学習のたしかめプリントを使用し、学習の定着度合によってチャレンジプリント、フォロープリントに取り組みさせることを継続して行った。ベーシック診断テストを学期に1回行い、児童一人一人の習熟度合いやクラス、学年の領域別課題を担当が把握し、日々の学習に活かすことができた。
- 問題解決型の流れに沿った指導を学校として取り組めるよう、学期ごとに学習計画を立て、それぞれの習熟度合いに合った課題を提示し、問題を解決できるようにした。
- 自力解決を行うときに、言葉での説明を加えることや、絵や図などを用いることにより、立式の根拠を明確にするようにした。繰り返し自立的・協働的な問題解決の流れを行うことにより、演習問題の際にも、解き方を意識し、自分の考えをもち解答する様子が見られるようになった。
- △ノートのとり方について学年間での共通の書き方を指導することができたが、校内で共通の書き方を指導することができず、課題が残る。
- △説明する児童が一部に固定化されがちな点は、改善する必要がある。自力解決が難しい児童の支援の方法について演習問題に取り組む際に解法を確認したり、基礎的な問題を抽出したりして行うなどの支援を行う必要がある。

2 今年度の調査結果の分析と結果に基づく課題

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
調査結果の分析	算数の知識・技能（知識・理解・技能）は、どの学年も目標値を大きく上回っている。 区の平均とは、どの学年もすべての項目で上回っていた。校内の結果は、4年生は、かけ算の問題で前回の平均を少し下回っている。5年生は、前回の平均とほぼ同等の結果である。6年生は、前回の平均を下回っている。	算数の思考・判断・表現（数学的な考え方）は、どの学年も目標値を大きく上回っている。 区の平均とは、どの学年もすべての項目で上回っていた。校内の結果で比べると、4年生と5年生は、前回の平均を少し上回っている。6年生は、前回の平均を下回っている。	算数の主体的に取り組む態度（関心・意欲・態度）は、どの学年も目標値を大きく上回っている。 区の平均とは、どの学年もすべての項目で上回っていた。校内の結果で比べると、4年生は棒グラフ、5年生は、分数の問題で、前回の平均を少し下回っている。6年生は、整数の仲間分けの問題で前回の平均を下回っている
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・思考・判断・表現の面では、児童自身の生活経験からくる既知の概念を、学校の既習の内容で表現することで、自身の知識を整理し活用できる素地を養う必要がある。 ・4年生「数と計算」、5年生「分数の大小比較」「分度器の読み取り」、6年生「小数と分数の計算」「偶数と奇数、倍数」「速さ」が、目標値を下回る結果であった。基礎的な技能の定着を確実に促すため、上記の内容を用いる単元の学習の際には、基礎的な内容の確認を行う必要がある。 		

3 授業の具体的な改善策

教科目標	<p>学習指導要領の教科の目標</p> <p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>(1) 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の現象を数理的に処理する技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 日常の現象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養う。</p> <p>(3) 数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとする態度、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。</p>
全体	<p>主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善</p> <p>既習の内容を生かし、問題解決する力を身に付けるために問題解決型の授業を進める。筋道を立てて説明する資質能力を育成するために自分の考えを発表する、友達の考えを聞き、より考えを深める授業を進める。また、児童が問題を解決したいと意欲を喚起させる発問や教材提示などを工夫する。</p>
学年段階別改善策	
低学年	<ul style="list-style-type: none"> ・自力解決の時間を十分確保し、絵やテープ図、式、自分の言葉などで自分なりに表したり、伝えたりできるようにする。 ・具体物の操作を多く取り入れることにより、根拠を明らかにし、確実な知識にしていく。 ・ノートの書き方を共通することにより、学習の基礎を養う。 ・計算の基本となるたし算やひき算、かけ算九九は、繰り返し学習し、着実な定着を図る。
中高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもつ→自力解決（絵、図、式等）→友達と考え方の交流→全体の交流→検討→類似問題という自立的・協働的な問題解決の流れを授業の中で取り入れ、筋道を立てて論理的に考える力を身に付けさせる。 ・習熟度別指導の特性を生かし、習熟の度合いにあった教材や支援方法を考える。担任や算数少数指導担当教員・補習講師の連絡を密にし、児童の習熟状況を見取り、個別に対応する。